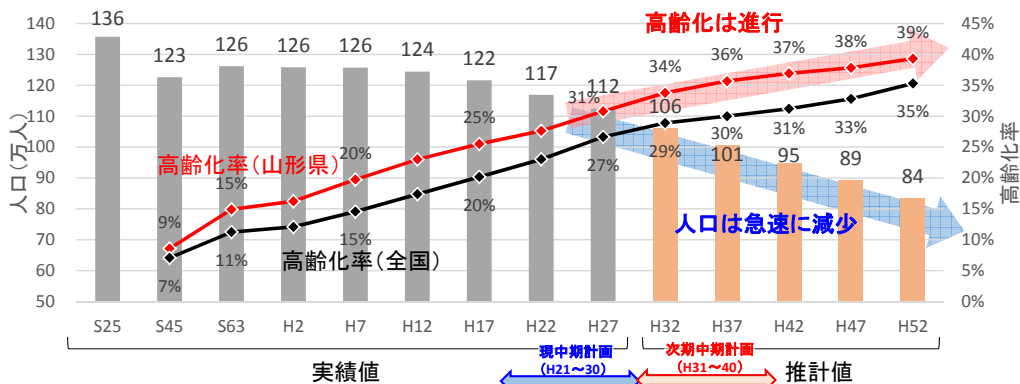


1. 山形県の人口の推移

少子高齢化を伴う人口減少が加速

- 山形県の人口のピークは、昭和25年の約136万人。平成19年には120万人を割り込む。
- 今後、平成30年代後半には100万人を割り込むことが予想され、さらに人口減少が進む。
- 高齢化率は、平成27年には31%にまで増加。高齢化の進行は全国平均を大きく上回る。

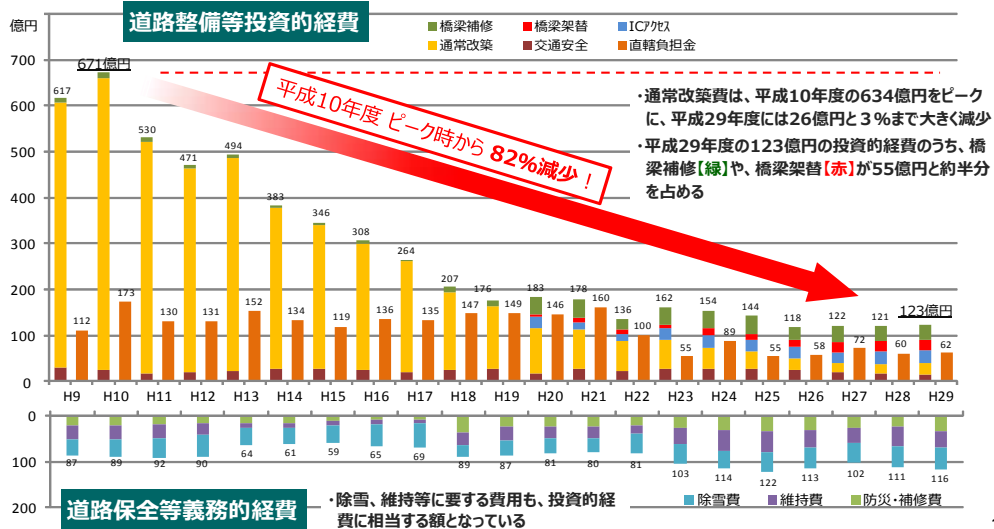


資料：総務省、国立社会保障・人口研究所

2. 道路予算の推移

道路関係予算は大きく減少する中、維持管理費の割合は大きく増加

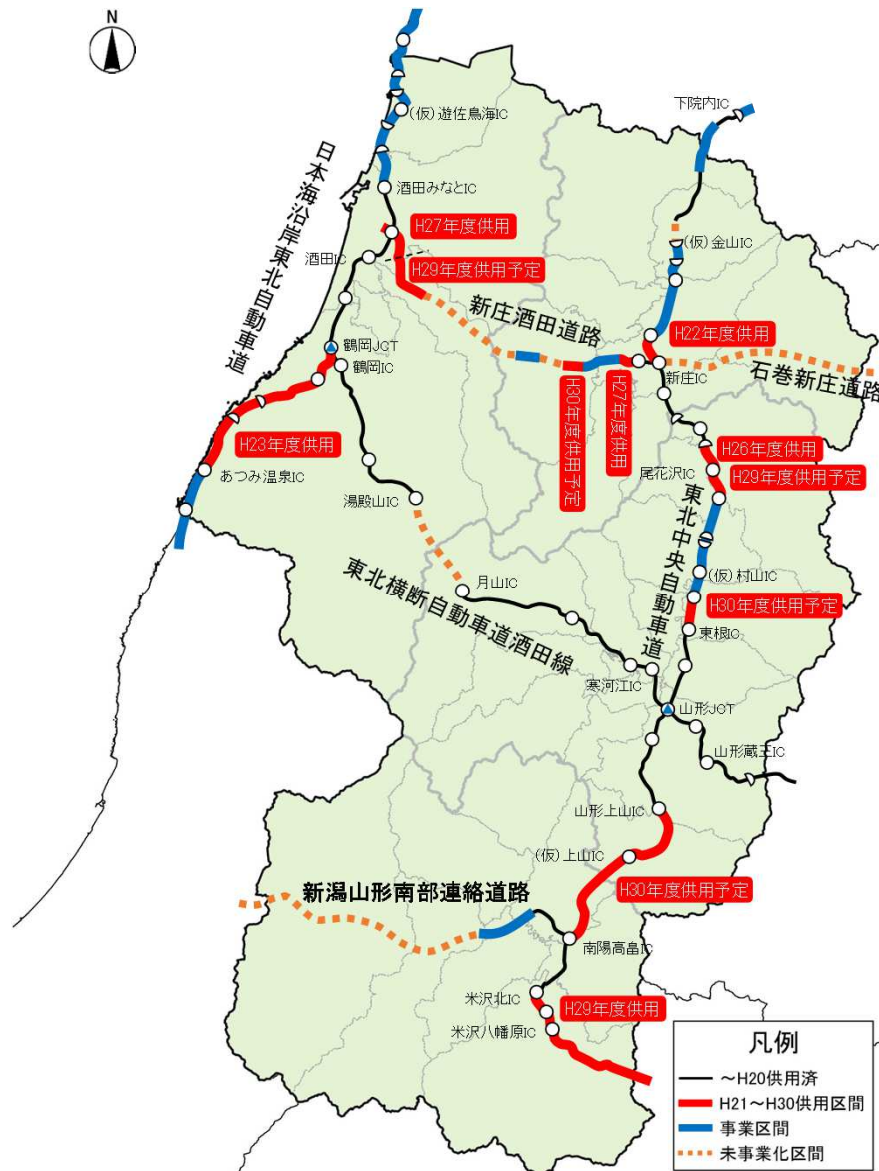
- 道路整備等投資的予算は平成10年度のピーク時から、約8割減少。
- 一方、義務的経費(除雪費、維持費等)は高止まり。道路予算に占める割合が増大。



3. 幹線道路網の整備状況

整備途上の高速・高規格道路

- 平成20年代には、日沿道・東北中央道が相次いで開通。平成30年代初頭には、高速道路の供用率は約80%に達する。
- 今後は、高規格幹線道路網を徹底的に活用し、地域間交流や経済活動の活性化が必要。
- 現在事業中または未着手区間においても、早期のネットワーク構築が求められる。



この10年で見えてきた課題

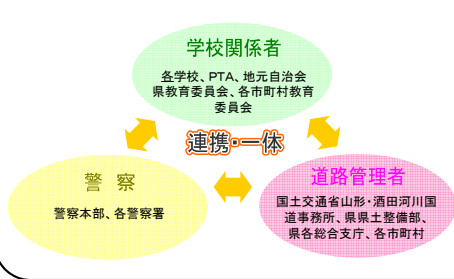
1. 平成20年代に顕著となった課題

通学路の危険性が明るみに

- 平成24年4月、京都府亀岡市において児童等の列に自動車が入り込む事故が発生。
- その後も全国で児童・生徒を巻き込む事故が頻発し、歩道整備等の重要性が再認識。
- 全国に先がけ、「山形県通学路安全確保対策プログラム」(H25.3)を策定し、取組みを推進。

「山形県通学路安全確保対策プログラム」概要

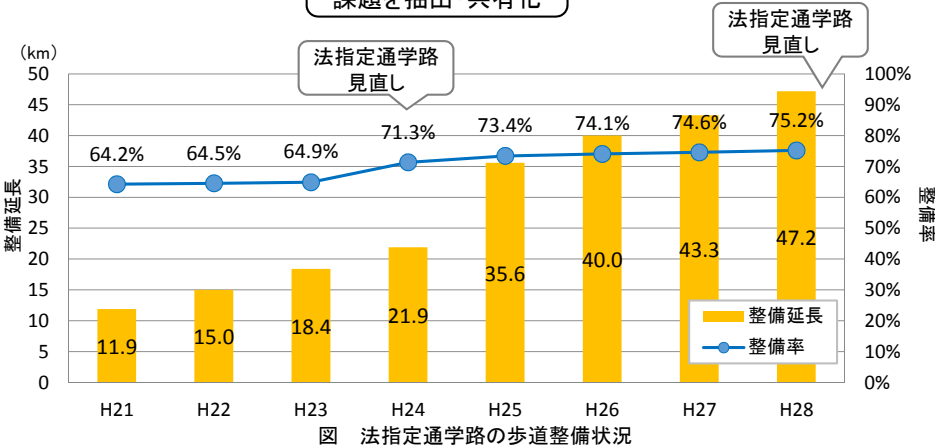
●各機関の連携イメージ



●毎年度行う通学路点検と対策実施のイメージ



合同点検を実施し
課題を抽出・共有化



道路施設の老朽化が進行

- 平成24年12月に発生した中央道笹子トンネル天井板落下事故を受け、道路施設の老朽化の現状が明るみに。
- 建設後50年以上を経過した老朽化橋梁は、20年後に全管理橋梁の約6割となり、今後、膨大な費用が必要。
- 道路施設の長寿命化対策に要する予算が高止まり。
- 老朽化施設の診断・対策に必要な人材の確保が必要。

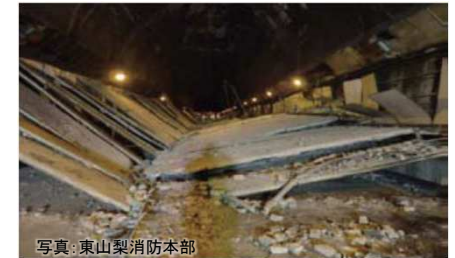
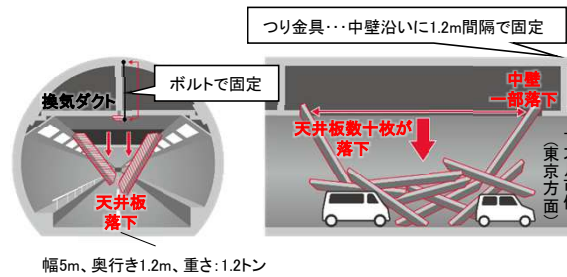


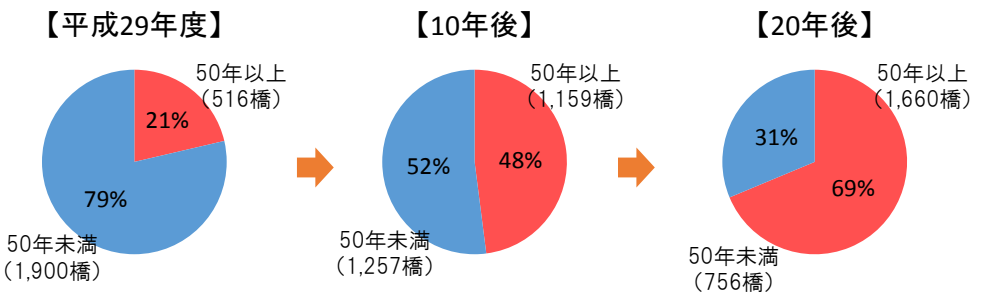
図 中央道笹子トンネル天井板落下事故の状況



図 床版コンクリートの剥離



図 主桁コンクリート損傷状況



この10年で見えてきた課題

2. 東日本大震災で浮び上がった課題

大規模災害に備えた広域交通ネットワークの確保

- 山形県内の道路は、東北道等の被災道路の広域的代替路として利用され、救援物資の輸送や経済活動を支援。
- 本県の高速度道路・地域高規格道路網(格子状骨格道路ネットワーク)にはいまだ多数のミッシングリンクが存在。代替路としての機能確保の面で課題が浮き彫りに。

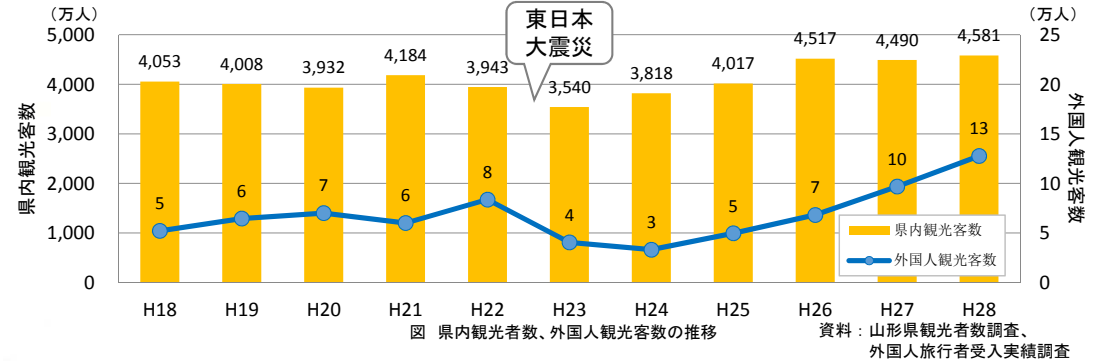


東日本大震災による交通量(発生前後1週間)の変化【全車】

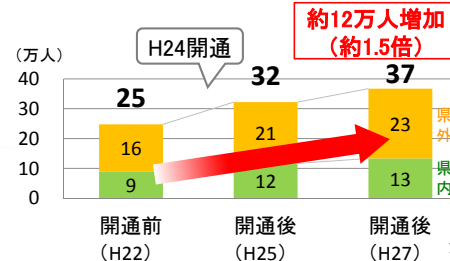
3. 新たな時代のニーズの発生と対応

県内観光者、訪日外国人の増加

- 山形県の観光者数は、この10年で13%増加。
- また、外国人観光客も増加しており、平成28年度には東日本大震災前の水準を上回り10万人を突破。
- インバウンド等の新たなニーズに対応した周辺環境の整備促進が必要。



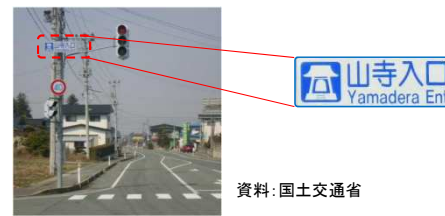
【日沿道(温海～鶴岡)開通の効果】 あつみ温泉の観光客数の推移



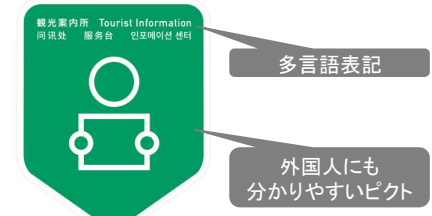
【東北中央道(福島～米沢)開通の効果】 観光客数の推移

- ◆米沢市、南陽市、高島町は、前年同期比10～80%増
 - ◆上杉城史苑(米沢市)は、前年同期比84%増
開通後の週明け前半も例年の2倍以上
 - ◆よねおりかんこうセンター(高島町)は、前年同期比約1.6倍
- 資料: 山形新聞(H29.11.11)

交差点の標識に観光地名を表示



「道の駅」の観光案内所サインの作成



自転車活用推進法

- 平成29年5月に“自転車活用推進法”が施行。
- 自転車の活用による環境、交通、健康増進等を図るため、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進。

道路施設の利活用

- 道路利用者がトイレや休憩ができる施設の需要が高まってきており、「道の駅」やPAなど道路施設の利活用が求められている。

県政アンケートの結果(平成29年度実施)

アンケートの概要

山形県は、県施策の企画立案並びに執行上の基礎資料とするために、県民の生活や県政に対する県民ニーズ・意識などを把握することを目的としたアンケート調査を毎年実施している。アンケート調査では、社会資本整備・道づくりに関する調査項目も設けられ、道路整備等に対する県民の要望を広く収集している。

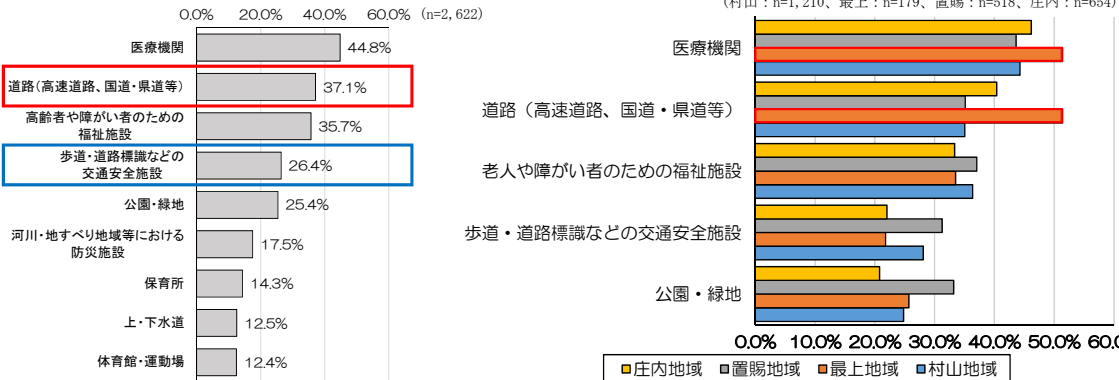
- 調査対象
山形県全域
県内在住の満18歳以上の男女個人
- 実施期間：平成29年7月上旬～7月下旬
- 回答数：1431件
- 回答率：57.2% (1431/2500)

アンケート項目

I	「山形県への愛着」について
II	「自然」について
III	「文化・芸術」について
IV	「県の情報発信」について
V	「安全・安心な暮らし」について
VI	「地域のつながり」について
VII	「仕事」について
VIII	「社会資本の整備」について
1	住んでいる地域の生活環境をよりよくするために、どのような施設が重要であると思いますか。(〇は5つまで)
2	社会資本の中でも、特に道路整備(みちづくり)についてうかがいます。優先的に整備して欲しいと考える道路についてお答えください。(〇は2つまで)
3	これからの道路整備(みちづくり)にあたっては、どのような点を重視する必要があると思われますか。(〇は2つまで)
IX	「食品の安全性」について

〔Ⅷ-1〕居住地域の生活環境をよくするために重要な施設

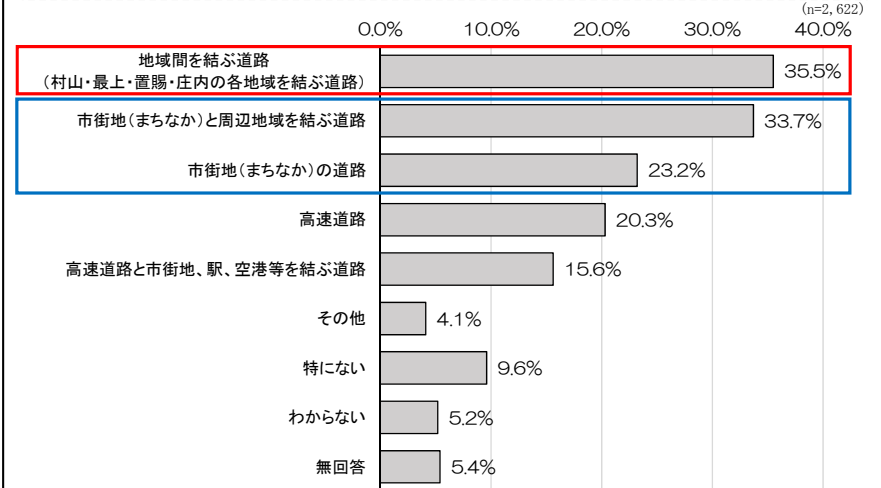
- ・医療機関・福祉施設に関する要望が上位にあがっている。
- ・道路(高速道路・国道・県道等)・交通安全対策に関する要望も、近年は上位で推移している。
- ・居住地別では、「最上地域」が、道路・医療機関に関する要望が高く、共に5割を超えている。
- ・「道路(高速道路・国・県道等)」を求める割合は、男性が45.3%、女性が29.6%と性別で差が生じている。



	昭和55年調査 (n=1,865)	昭和61年調査 (n=1,843)	平成7年調査 (n=1,739)	平成11年調査 (n=1,695)	平成14年調査 (n=1,626)	平成18年調査 (n=1,931)	平成25年調査 (n=2,819)	平成29年調査 (n=1,431)
1位	病院等の医療施設(45.4%)	道路(高速道路、国道・県道等)(45.0%)	老人や障害者のための福祉施設(50.5%)	老人や障害者のための福祉施設(46.1%)	老人や障害者のための福祉施設(48.1%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(47.1%)	老人や障害者のための福祉施設(40.1%)	医療機関(44.8%)
2位	道路(高速道路、国道・県道等)(45.1%)	下水道・下水路(33.6%)	病院等の医療施設(44.6%)	病院等の医療施設(42.4%)	道路(高速道路、国道・県道等)(48.1%)	老人や障害者のための福祉施設(44.6%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(36.3%)	道路(高速道路、国道・県道等)(45.1%)
3位	下水道・下水路(39.8%)	病院等の医療施設(33.2%)	下水道・下水路(39.4%)	道路(高速道路、国道・県道等)(38.0%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(32.4%)	道路(高速道路、国道・県道等)(42.4%)	病院等の医療施設(34.9%)	老人や障がい者のための福祉施設(35.7%)
4位	老人や障害者のための福祉施設(37.4%)	老人や障害者のための福祉施設(23.5%)	道路(高速道路、国道・県道等)(38.9%)	下水道・下水路(29.1%)	遊園地などの子どもの遊び場(28.2%)	病院等の医療施設(42.3%)	道路(高速道路、国道・県道等)(32.7%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(27.7%)
5位	歩道・道路標識などの交通安全施設(26.0%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(17.7%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(27.0%)	歩道・道路標識などの交通安全施設(27.7%)	下水道・下水路(27.4%)	公園や緑地(33.0%)	公園や緑地(23.6%)	公園・緑地(25.4%)

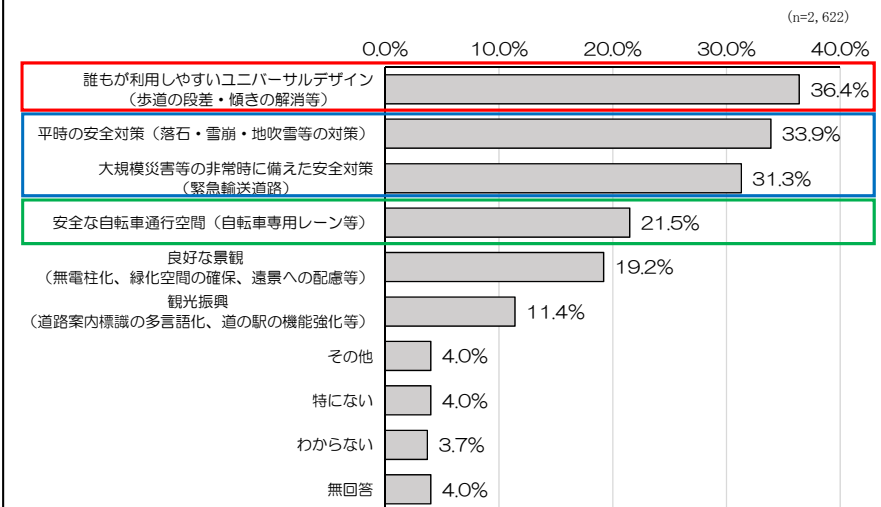
〔Ⅷ-2〕優先的に進めて欲しいと考える道路施策

- ・「地域間を結ぶ道路(村山・最上・置賜・庄内の各地域を結ぶ道路)」への要望が、35.5%と最も多い。
- ・「市街地(まちなか)と周辺地域を結ぶ道路」、「市街地(まちなか)の道路」など、市街地周辺での道路整備への要望も高い。



〔Ⅷ-3〕道路整備(みちづくり)で重視すること

- ・「誰もが使いやすいユニバーサルデザイン(歩道の段差・傾きの解消等)」が36.4%と最も割合が高く、次いで「平時の安全対策(落石・雪崩・地吹雪等の対策)」、「大規模災害等の非常時に備えた安全対策(緊急輸送道路)」の災害に備えた安全対策、「安全な自転車通行空間(自転車専用レーン等)」の交通安全面での安全対策の順になっている。



道路利用者会議アンケート(平成29年度実施)

アンケートの概要

山形県道路利用者会議として道路利用者から意見を聞き、より具体的に山形県の実情を反映したきめ細かい要望を行い、道路予算の獲得と、施策を実現することを目的としたもの

○調査対象

会 員：134会員
特別会員：25会員 計159会員

○実施期間：平成29年6月26日～7月21日

○回答数：85件

回答率：約5割(85/159)

アンケート項目

※問7はバス・トラックの協会により設問が異なる

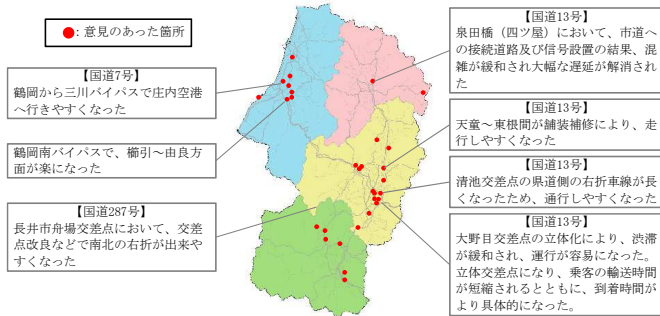
I	一般道路(一般国道や県道)の運行について
1	最近の道路整備により、運行や業務において、どのようなところが便利になり、どのような変化があったか。
2	「通りにくい、運転しにくい箇所」や「できれば通りたいが、何らかの状況で通りにくいため回避している箇所」について。
II	高規格幹線道路(=高速道路)及び地域高規格道路の運行について
1	最近の道路整備により、運行や業務において、どのようなところが便利になり、どのような変化があったか。
2	道路を高速化することにより、どのような効果があると思うか。
III	休憩施設や観光案内情報源となる「道の駅」について、改善した方が良い点、または、このような機能があれば良い点
IV	『「道の駅」(仮称)よねざわ』への質問・意見について
V	その他、道路利用上の気づき、要望などについて
VI	(追加質問：バス・トラック) 県内の国道や県道等の幹線道路(高速道路を除く)で、貴方がバスを運行している際、最も渋滞がひどいと思われる箇所について
VII	(追加質問)
1	(バス) 県内のバス路線で、バス停の上屋やベンチの設置などの改善が必要と考える箇所
2	(トラック) 休憩のために利用する道の駅やSA・PAで、駐車スペースが最も足りないと思われる箇所を3つ以内であげてください。

【I】一般道路(一般国道や県道)について

便利になった箇所、変化について

回答件数(60件)

国道13号に関する意見が20件と最も多く、国道287号が5件、国道7号、国道112号で4件の回答を得ている。



運転しにくい箇所、通りたいが回避している箇所

回答件数(96件)

通勤時間帯・観光での混雑や、道路幅員が狭いこと、安全面での意見が多い。

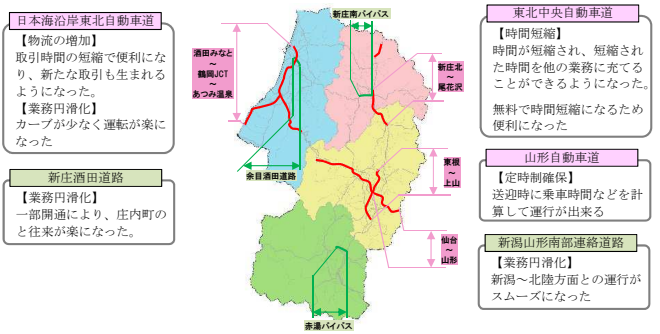
路線名	意見
国道13号	米沢市内で、通勤時間帯が混み合う。
国道47号	新庄～戸沢間の道幅が狭い。新庄～庄内間で交通障害が発生し、通行止めになると迂回路が無く、国道112号に迂回しなければならぬときがある。
国道48号	土日に渋滞する。観光のためか、朝・夕の渋滞がひどい。
国道112号	山形市内表～中野区間について、道幅が狭く、大型車がすれ違う際に接触する恐れがあり、小学生の通学路にもなっており危険。
国道286号 国道348号 山形西バイパス	元々狭い道路を、片側2車線にしたものであり、狭くて走りづらい。片側2車線が狭く、大型車が走りづらい。
(主) 山形山辺線	山形市陣場～鮎洗の幅員が狭い。大型車の通行が危険

【II】高規格幹線道路・地域高規格道路について

便利になった箇所、変化について

回答件数(43件)

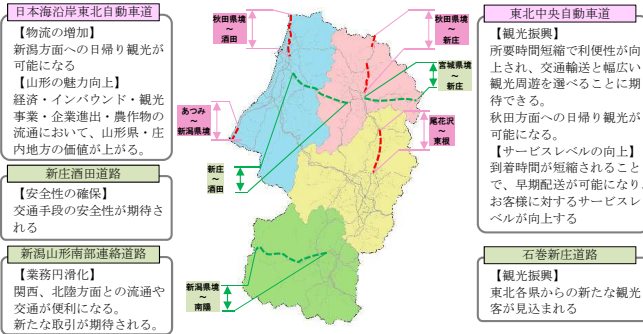
各道路とも、時間短縮やそれに伴う業務円滑化などの意見が多い。



道路の高速化で期待される効果について

回答件数(73件)

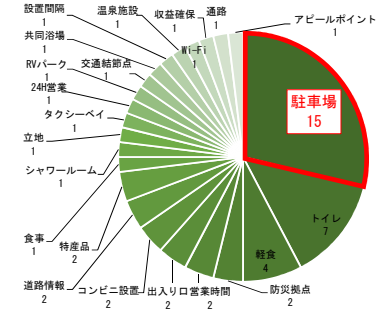
観光振興や、県の魅力向上といった意見や業務円滑化の意見が多い。



【III】「道の駅」について

回答件数(52件)

「道の駅」の駐車場に関する意見が約3割を占めている。



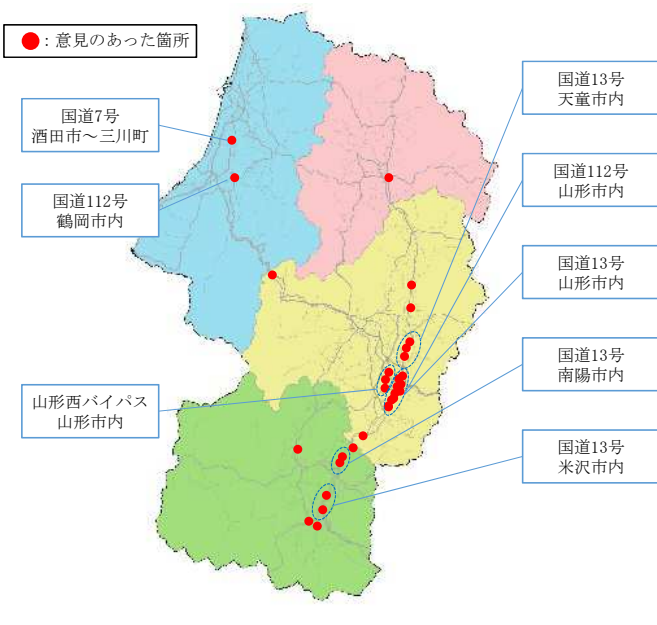
【駐車場に関する意見】

- 人気の道の駅では、大型車のスペースが少なく、一般車両が大型の駐車スペースに停車している場合が多く見られる。
- 道の駅全体について、バス専用駐車スペースを確保していただきたい
- 全体的に、営業時期には大型駐車スペースに家用普通自動車が停められるため、大型スペースはトラック専用として区別使用してほしい
- 身障者の方の駐車スペースをもっと増やしてほしい。休日等では、一般の方も身障者の駐車スペースを使用するため、大変困っている方が多い。

【VI】渋滞がひどいと思われる箇所について

回答件数(60件)

国道13号で渋滞がひどいと感じている箇所が多く、東村山地域に集中している。



市町村アンケートの結果(平成28年度実施)

アンケートの概要

次期中期計画を検討するために必要な資料収集を目的として各市町村の道路担当職員を対象に実施した。

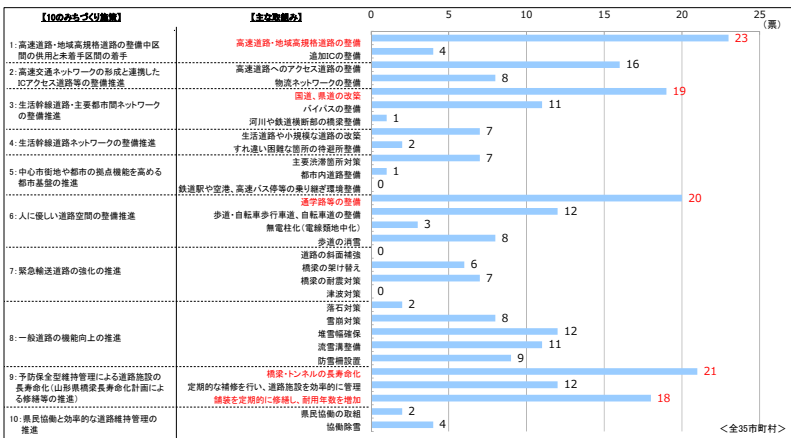
- 調査対象
山形県35市町村 道路担当課
- 実施期間：平成29年1月24日～2月2日
- 回答数：35件
- 回答率：100% (35/35)

アンケート項目

I	今後、山形県において取り組んでいくべき道路施策について	
1	「山形県道路中期計画」における「10のみちづくり施策」において、引き続き取組みを強化していく必要がある施策	最大5つ選択 (+順位付け)
2	各施策の主な取組みとして重要と思うもの	複数可
3	「安全・安心」「生産性向上・成長・強化」「地域活性化・豊かな暮らし」の各視点における重要と思う施策	最大3 (or5) つ選択 (+順位付け)
4	今後の道路整備を進める上での重要な施策について	自由記述
II	冬期の道路交通対策について	
1	冬期の道路交通対策のうち、特に今後取組むべき施策について	最大5つ選択 (+順位付け)
2	冬期道路通行施策を選んだ理由	自由記述
III	山形県の道路施策全般について	
	上記以外で、今後、特に取組んで欲しいこと	自由記述

【I-2】各施策の主な取り組みとして重要と思うもの

重要と思われる取組みとして「高速道路・地域高規格道路の整備」「橋梁・トンネルの長寿化」「通学路の整備」「国道、県道の改築」「舗装の定期的修繕」が上位5位に選ばれ、『高規格幹線道路網の整備』『道路施設の長寿化』の取り組み強化が重要と考える市町村が多い。



『高規格幹線道路網の整備』への主な意見

- 高速道路整備は流通の核。早期完成を目指すし、物流ネットワークの確立に向け整備が必要。
- 地域高規格道路とアクセス道路の整備により、地域経済へのストック効果を発現させるために早期完成を目指すべき
- 高速道路網のミッシングリンク解消が地方活性化には不可欠。また、中山間地が多く、生産拠点までの距離があるため、既存道路の適正な維持又は改築も必要。

『道路施設の長寿化』への主な意見

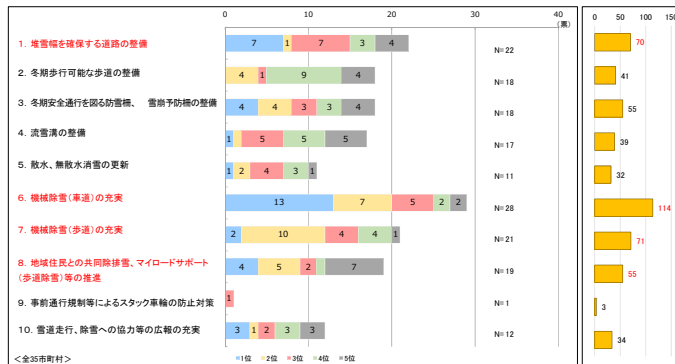
- 新規道路の整備よりも既存のインフラの良好な維持管理が重要
- 既存の道路施設を使いながら地域内外の人が利用できるような道の駅の施設を設け地域活性化ができれば良い
- 既存道路の機能等を確実に確保した上で、新たな道路整備等の取り組みが必要

【II-1】冬期の道路交通対策のうち、特に今後取組むべき施策

冬期に取組むべき施策として、「堆雪幅を確保する道路整備」「機械除雪(車道・歩道)の充実」「地域住民との共同除排雪」が選定された。

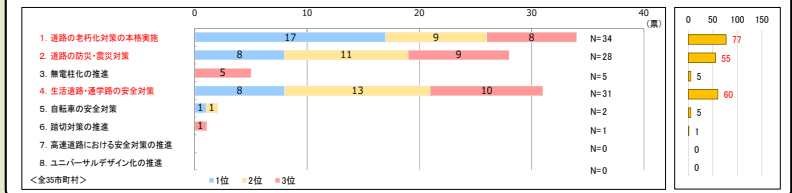
冬期道路対策への主な意見

- 機械による除雪が路線延長に対し追いついていない為、機械除雪の充実が必要
- 散水消雪は家屋の密集している部分に設置されており、機械除雪での対応が困難であることから、水が出なくなったら廃止ではなく、更新していく検討をお願いしたい。
- 一部人家が密集している箇所においては、拡幅等もままならないことから流雪溝等の整備が必要であり、これらの整備と共に、住民に理解と強力の意識を持ってもらう取り組みが必要



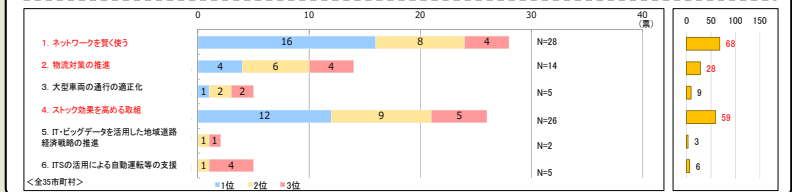
【I-3】「国民の安全・安心の確保」の視点で重要な施策

安全・安心面で重要とされる新たな施策として「道路の老朽化対策」「道路の防災・震災対策」「生活道路の安全対策が選ばれている。



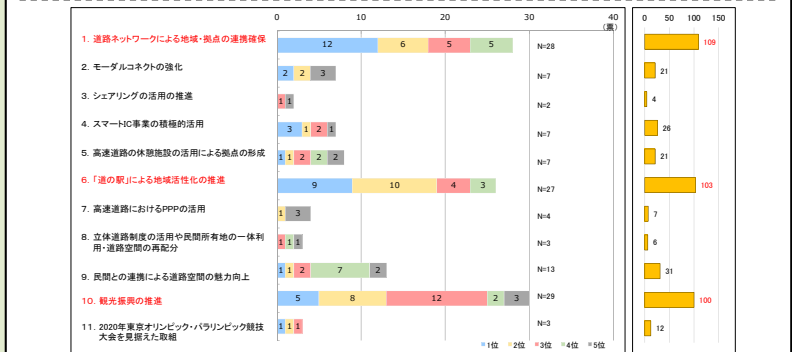
【I-3】「生産性向上・成長力強化」の視点で重要な施策

「ネットワークを賢く使う」「物流対策」「ストック効果」が選ばれている。



【I-3】「地域の活性化と豊かな暮らしの実現」の視点で重要な施策

地域の活性化の視点では、「道路ネットワークによる地域・拠点の連携」「道の駅による地域活性化」「観光振興の推進が選ばれている。



【III】道路施策全般

- 交付金・補助金制度
除雪費用が除雪機械購入に対する助成措置の充実をお願いしたい。
- 道路網の整備
現在の交付金はインフラ長寿化に重点が置かれ、地域要望の道路改良に予算が十分に回らない。道路の安全確保と円滑化など、市町村が行う社会資本整備への支援もお願いしたい。
- 道路設備・施設
主要道路の改良と交通安全施設の整備、老朽橋梁の架替、交通渋滞対策、集落内を通過している道路のバイパス整備、観光地までの路線の整備等

県職員OBアンケートの結果(平成28年度実施)

アンケートの概要

次期中期計画を検討するために必要な資料収集を目的として、山形県土木部OB(過去に県庁の道路担当課に在籍していた方)を対象に実施した。

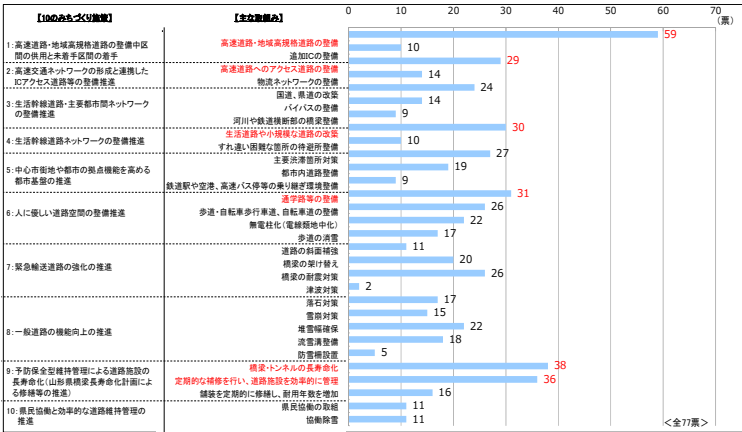
- 調査対象：県土木OB
(過去に県庁の道路担当課に在籍していた方)
- 実施期間：平成29年1月24日～2月2日
- 回答数：77件
- 回答率：50%(77/154)

アンケート項目

I	今後、山形県において取り組んでいくべき道路施策について	
1	「山形県道路中期計画」における「10のみちづくり施策」において、引き続き取り組みを強化していく必要がある施策	最大5つ選択 (+順位付け)
2	各施策の主な取組みとして重要と思うもの	複数可
3	「安全・安心」「生産性向上・成長・強化」「地域活性化・豊かな暮らし」の各視点における重要と思う施策	最大3(or5)つ選択 (+順位付け)
4	今後の道路整備を進める上での重要な施策について	自由記述
II	冬の道路通行対策について	
1	今後取り組んでほしい冬の道路通行施策	最大5つ選択 (+順位付け)
2	冬の道路通行施策を選んだ理由	自由記述
III	山形県の道路施策全般について	
	上記以外で、今後、特に取組んで欲しいこと	自由記述

【I-2】各施策の主な取組みとして重要と思うもの

重要と思われる取組みとして「高速道路・地域高規格道路の整備」「橋梁・トンネルの長寿命化」「通学路の整備」「定期的な補修」「高速道路のアクセス整備」「生活道路の改築が上位5つに選ばれ、「高速道路・地域高規格道路の整備」「道路施設の長寿命化」「ICアクセス道路の整備」を重要と考えられている。

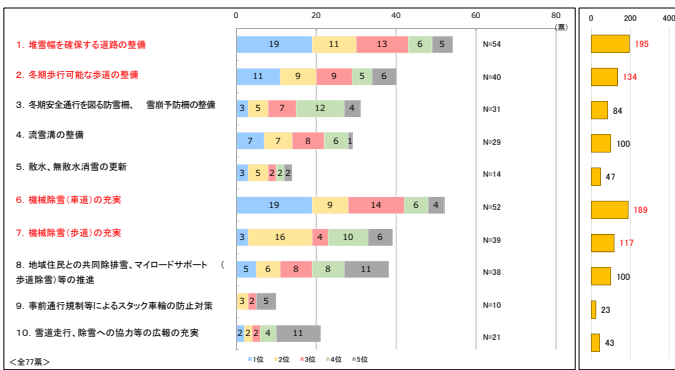


【II-1】冬の道路交通対策のうち、特に今後取組むべき施策

冬期に取り組むべき施策として、「堆雪幅を確保する道路整備」「機械除雪(車道・歩道)の充実」が選定された。

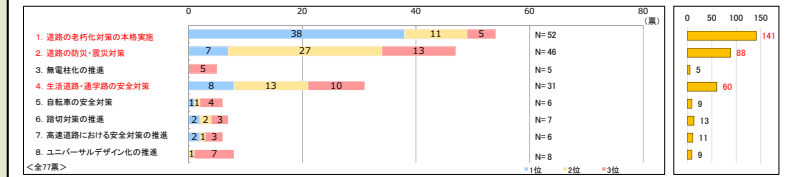
冬期道路対策への主な意見

- 円滑な交通の確保策として、堆雪幅確保、安全な通行の雨の防雪柵の整備もまだまだ必要。
- 建設産業の衰退により、建設業者数の検証、重機種のリース化、オペレーターの高齢化など、除雪を取り巻く環境は年々厳しくなっていく。除雪機械を業者からの借り上げに頼っている市町村のこれからの除雪が心配。
- 歩道除雪機の台数が限られているようで、歩道除雪は通学時間までに除雪が完了していない。
- 除雪技術の向上と、除雪担当者の人材育成が重要。



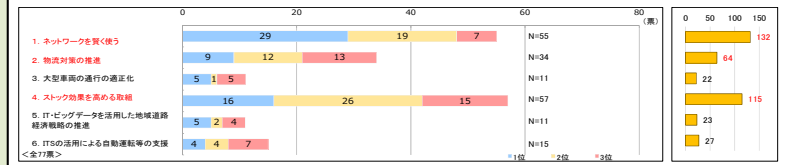
【I-3】「国民の安全・安心の確保」の視点で重要な施策

安全・安心面で重要とされる新たな施策として「道路の老朽化対策」「道路の防災・震災対策」「生活道路の安全対策が選ばれている。



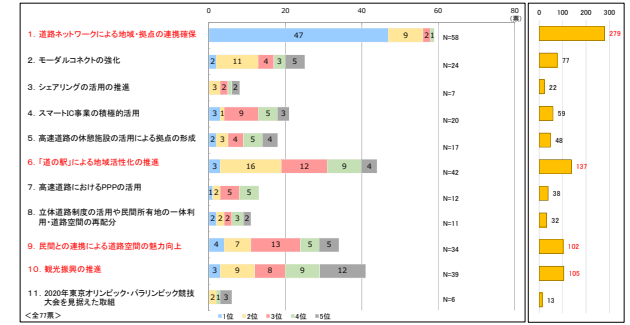
【I-3】「生産性向上・成長力強化」の視点で重要な施策

「ネットワークを賢く使う」「物流対策」「ストック効果」が選ばれている。



【I-3】「地域の活性化と豊かな暮らしの実現」の視点で重要な施策

地域の活性化の視点では、「道路ネットワークによる地域・拠点の連携」「道の駅による地域活性化」「観光振興の推進」「民間との連携による道路空間整備」が選ばれている。



【III】道路施策全般

- 高速道路・地域高規格道路
仙台都市圏となる村山地域の発展には国道48号の高規格化は必須と考えられる。高齢社会対応として「小さい交通も考慮すべき。
- 既存道路の修繕・維持管理
道路維持管理の業務委託は、限られた予算の中で大変な事とは思いますが、僅かな注意や行為で未然に事故等を防止することができるものと思います。
- 道路設備・施設の新設・管理
橋梁トンネル等の耐震対策、または落石雪崩、地上等の危険対策をこれまでに以上実施すべき。

県内ブレスト・総合支庁ヒアリング結果

県内ブレスト・総合支庁ヒアリングの概要

現中期計画の目標年次（平成30年度）が迫る中、次期「道路中期計画」の策定に向け、各地域毎の課題や若手職員が感じている懸念事項について把握し、次期中期計画の策定に活かしていくことを目的として開催した。

○調査対象

【県内ブレスト】

山形県庁道路整備課・道路保全課（平成29年6月実施）

【総合支庁ヒアリング】

村山総合支庁・最上総合支庁・置賜総合支庁・庄内総合支庁
（平成29年8月～9月実施）

県内ブレストの結果

県内ブレストにおいては、概ね10年後に想定される社会情勢の変化、事象に伴って発生する課題・対策などについて議論した。

①道路予算関係

- 人口減少に伴い、維持管理、橋梁補修・耐震化が追いつかなくなる
- 道路整備や維持管理について、より一層の選択と集中が必要
- 除雪区間・水準の見直しや、メンテナンスフリーな道路構造が必要

②高速道路網の概成を見据えたみちづくり

- 観光客（国内・インバウンド）の増加に備え観光地へのアクセス道路が必要
- 交通量の増加に備え、高速道路を補完する道路の整備が必要
- 東西方向の横軸道路の整備が必要
- 高速道路を活かす仕組みづくりが必要
- 道の駅などの休憩施設が必要

③長寿命化への継続した対応

- 老朽化の進行により、長寿命化対策が追いつかないため、効率的な修繕計画の策定と実施
- 耐用年数などを勘案しながら計画的に更新
- 長寿命化等の更新計画の見直し・標準化、補修方法の見直し

④観光ニーズ・景観への配慮

- 観光地へのアクセス道路の強化が必要
- 外国人観光客の増加のため、道の駅や道路施設の多言語標記などが必要となる
- 道路景観（ビューポイント等を含む）への関心が高まっており、無電柱化などの景観への配慮が必要

⑤道路利用の多様化

- 自転車利用の増加に伴い、自転車のための案内看板や、休憩所での駐輪場の整備が必要
- 自動車・自転車・歩行者の分離が必要（安全性の確保）
- 道の駅を拠点とした取組み（パーク＆ライド、移動販売等）が必要

⑥少子高齢化への対応

- 高齢者の増加に備え、道路の逆走防止対策や、自動運転への対応が必要
- 空き家の利活用や撤去の促進のほか、集団移転の検討も必要
- 買い物弱者対策が必要

⑦その他

- 異常気象が増加しており、孤立集落アクセス道路対策、除雪体制、道路排水機能の強化が必要
- 10年後も自動車への依存度が高く、道路へのニーズは減らない
- 自動運転などの新技術にも注目した道路設備（施設整備）が求められる

総合支庁ヒアリングの結果

総合支庁ヒアリングでは、県内ブレストで出た課題・対策や、県予算の推移などを参考に、地域特有の課題などについてもヒアリングを行った。多くの支庁で、東北中央自動車道・日本海沿岸東北自動車道全線開通後の観光客・産業等の流出を懸念する声が多く聞かれるとともに、道路予算の効率的な活用等、活発的な意見交換がなされた。

村山総合支庁

道路整備・維持管理について

- 地方まで外国人を呼び込む仕掛け作りとして、インバウンドに対応した道路案内標識の整備
- メリハリをつけた維持管理手法の検討

道路整備による影響について

- 高速道路が完成・概成されていく中で、ネットワークも変化し、渋滞箇所も変化しているため、そこを見据えた道路整備が必要
- 高速道路整備では、経済効果よりも人口流出の懸念があることに注意が必要。ICで降りてもらって、高速道路を活かす仕組みづくりが必要

地域づくりについて

- 地元の観光地にどうやってきてもらうか、市町村も絡めて施策を考える必要がある
- 訪日外国人の取り込みが必要

交通安全について

- 通学路メインで安全対策を行っているが、少子高齢化を考慮して、高齢者視点も必要。
- 高規格道路での低速車対策、逆走対策が必要

最上総合支庁

道路整備・維持管理について

- 利便性のいい道路を体力のあるうちに作っていくべき
- 予算減少傾向のなかで、道路の管理基準を維持することの困難さを県民のPRすべき

道路整備による影響について

- 東北中央道ができて、素通りされてしまうことに懸念がある

地域づくりについて

- 暫定2車線の未供用地などを、当面、発電や市民農園などに活用してみるのはいかがでしょうか
- 高速道路から降りて何もないという事態を避ける為にも、上手く観光ネットワークを作る必要がある
- 町おこしという観点で、道路は必要だと思うので、イベントをするなど道路の使い方を多様化させていくことも大切

交通安全について

- 学校の統廃合や、スクールバスの導入等、通学方法の変化を考慮した検討が必要。通学路除雪の区間の見直しが必要。
- 現況幅員の中での自転車レーンの検討も必要
- 高齢者の歩きやすい歩道が必要

その他

- 過積載の規制を強化すべき

置賜総合支庁

道路整備・維持管理について

- 市街地部の道路整備も重要
- 橋梁の長寿命化は大きな課題になる。さらに効率的な長寿命化計画が必要

道路整備による影響について

- 道路整備による旧道の移管など、旧道処理方法の十分な事前整理が必要

地域づくりについて

- 高速道路が完成すると、ある程度の観光客が見込まれるが、道路が出来てから受け入れ体制を考えるのではなく、事前に考えるべき
- 高速道路は通過交通としての利用だけでなく、観光等で降りてもらおう仕組みづくりが必要

交通安全について

- 小学校の統廃合などで、通学路が変わって歩道の必要箇所も変わってきている

庄内総合支庁

道路整備・維持管理について

- 橋梁については架け替えの順番を考えるなど、計画的にやるべき
- バイパスが便利なのはわかるが、本当に必要なのかといった判断基準は必要
- 5年に1回の点検はきちんとやるべき
- 早期発見、早期治療など、橋梁の長寿命化のために、5年毎の点検費用はきちんと確保すべき

道路整備による影響について

- 日本海沿岸東北自動車道も10年後には県内全通も想定されるので、素通りされない対策が必要

地域づくりについて

- 住民参加型のプロジェクトを考える必要がある
- 県民協働の一つである、マイロードにも高齢化の影響が出ている

防災・減災について

- 吹溜柵を主に整備しているが、吹払柵でいい所もあるので、ケースバイケースで手法を選ぶべき
- 海が近く、長大橋が多いなど、自然条件を勘案すべき